

郡山城 広島県安芸高田市吉田町吉田字郡山

郡山城の正確な築城年は不明だが、毛利時親が 14 世紀中ごろに地頭として吉田荘に入り、標高 390 メートルの郡山の東南麓に城を築いたのが最初とされている。16 世紀中ごろに、毛利氏の当主となった元就が郡山の全域に城を拡大した。山頂の本丸を中心に放射状に延びる尾根と谷の地形を利用して 270 もの砦（とりで）が築かれていた典型的な山城。1600 年の関ヶ原の戦い後、元就の孫の輝元（てるもと）が長州（現在の山口県）に領地替えとなり郡山城は廃城となった。（バンフ）

当時の建物などは残っていないが、山麓には元就自身と毛利一族の墓所がある。



三の丸下通路の石垣跡



御蔵屋敷跡



毛利元就公像



毛利元就墓所



百万一心の碑

百万一心とは、元就が人柱の代わりに「百万一心」と彫った石を埋めさせると工事が上手くいくという伝説。幕末に長州藩士が山中で実物を発見したと自筆しているが、現在に至るまでその石は未発見で郡山城の最大の謎。



「三矢の訓」はJリーグサッカーチームの「サンフレッチェ広島」の名前にも由来しています。「サンフレッチェ」は日本語の「三」とイタリア語で矢を意味する「フレッチェ (FRECCHE)」を組み合わせた造語です。



歴史博物館展示物



市役所付近から城(旗)が見える